
あたしを見て

雲天道風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あたしを見て

【Nコード】

N9064F

【作者名】

雲天道風

【あらすじ】

大好きな男の子遠くで見てるだけでよかった・・・だがある日、彼女が出来たことであたしを狂わせる

（前書き）

ヤンデレです
ご了承ください
無理な方は
お引取り下さい

どうして？どうしてなの？どうしてあの人はあたしを見てくれないの？

高校になったあたしは入学したときから
好きな人がいる
でもその人は周りに凄く人気だった

あたしの手の届く存在じゃなかった・・・
でも彼を見てるだけで良かった・・・
彼は女性にあまり関心をもたないように見えた
だからあたしはちよつと嬉しかった

あたしのものにはならないけど
他の人のものにもならない
それなら見てるだけで良い
話せなくてもいい
遠くから、ひっそり見てるだけで良かった

でもその決意は変わってしまった・・・
ーあの日からー

あ、あたしがやったの？
嘘よ、嘘よね？
はっ！

お、お前！・・・
うわあああ！

違う、違うの・・・待って！

彼に彼女ができたらしい

あたしはそのことを知って

ショックでたまらなかった・・・

誰のものにもならないと思っていた・・・

そして気がつけばあたしの手には真っ赤に染まったナイフと
変わり果てた女がいた

それまでの記憶はない・・・

でもこの女は彼の彼女だ・・・

あたしがやったの？

そんなはずはない！

覚えていないのだから・・・

でも確かに

あたしのやった後があつた・・・

あたしの服に返り血がついて・・・

白く清潔なポロシャツは

酷く赤い血でいっぱいだった・・・

あたしは自分がわからなくなつた・・・

自分が壊れたようにも思えた・・・

こんなこと・・・殺人！

さ、殺人？

違うわ、これは殺人なんかじゃない
この女が罪を犯したから
あたしから彼をとったからいけないの
あたしは天罰を与えたの
殺人なんかじゃない
あたしは悪くない
悪いのは全部あの女よ

壊れたように誰もいない中
誰かに問いかけるように
あたしは次々と言葉を放った

ピンポン、ピンポン

誰です・・・うわああ！

がっ！

どうして、どうしてドアを閉めるの？
お客さんがきたよ？

な、なんだよ・・・お前！
俺、俺みたぞ！お前が、お前が
あいつを殺したところ！
こ、今度は俺を殺しにきたのか？

違うよ

迎えにきたの
あなたのせいなんだから
あたしがこうなっちゃったのは・・・

あなたは罪な人

グサツ！

っ！・・・な・・・何すんだ！！

彼はあたしに怯えている

どうして、あたしはこんなに愛してあげてるのに・・・
どうして？

あたしのことは嫌いなのか？

ねえ・・・

な、何だよ

あたしのこと、知ってる？

2組の奴だろ・・・

嬉しい、あたしのこと
覚えてくれてたんだ！

でも・・・

何？

お前、クールでおとなしい奴ってきいた・・・ぞ

だから言ったでしょ？

こうなったのは、あなたのせいだって・・・

お、俺は・・・どうしたら良いんだ？

あたしの・・・あたしのものになって？

お、お前の物？

彼はあたしの言葉に怯えていた

どうして怯えているのかはわからない

でも顔はすごく青ざめていて

いつもの彼の表情じゃなかった・・・

あたしの彼氏になるってこと、だよ？

ドサッ！

おい、おい！しっかりしろよ！！

目が覚めたら

ベットの上において

その横には彼がいた

起きたか？

大丈夫か？

あれ？

あたしなんで？

こんなところにいるの？

何も覚えてねえのか？

何も思い出せない・・・

でも彼の驚いた顔

青ざめた表情

悲しそうな表情

だけは・・・覚えていた・・・

あたし、何かした？

あなたの、あなたの・・・

！これに、これに・・・

見覚えねえか？

彼があたしの前に出したのは

赤く染まったナイフだった・・・

あはっははははっは！

狂ったようにあたしは笑い出した
それに怯える彼

・・・っ！

ねえ、今あたしと二人だよ、ね？

彼は怯えている

どうして？

あたしといて・・・

あたしが、怖いのか？

・・・

彼は声を出してくれない・・・
あたしが見つめてもどこかを
じつと見つめていた・・・

・・・んで？

なんで？

なんで・・・

いつもみたいに

楽しそうな笑顔・・・

見せてくれないの？

楽しそうな声

聞かせてくれないの？

・・・そ・・・

そんな・・・こ・・・と

で・・・き・・・ねえ・・・

かすれかすれの声

震えた声

悲しそうな声

今にも泣き出しそうな声

どうしてなの？

あたしと一緒にいて

どうして・・・

やっぱり、あたしみたいな
ちっぽけな存在には

見向きも、興味も示さないよね

ごめんね・・・

ごめんね・・・

ごめんね・・・

あたしはただひたすら謝った

愛する人が・・・

愛する人があたしをいらないなら・・・

グサッ・・・

グジュグジュ・・・

ボタボタ・・・

ご・・・めん・・・ね

あ・・・たし・・・

うま・・・

お、お前！

何してんだー！

大丈夫か・・・大丈夫・・・

彼の声が聞こえた気がした・・・

彼の目に、あたしは映ってたのかな？

ドサッ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9064f/>

あたしを見て

2010年10月10日07時51分発行